

授業科目名	共生と日本社会(2000051)		
時間割名	共生と日本社会(35204)		
時間割担当	大淵裕美		
実施期	後期	単位数	2 選択
曜日・時限	水・5		

授業の目標・概要

本講義では共生についてなされている様々な議論を紹介し、日本社会との関係を考察する。具体的には、共生という用語が生まれた背景や歴史を概観した上で、現代社会が抱える具体的な諸課題を手がかりに共生の可能性と意義について議論する。その作業を通じて、日本社会が抱える課題を共生という視点から解決するための方策について考察を深める。

学習の到達目標

- ・共生に関する基本的な知識を理解することができる。
- ・社会の急速な変化と共生との関係を理解することができる。
- ・多面的で柔軟なものを見方があることを知り、受容することができる。
- ・社会的課題にたいして、自分に何ができるかを主体的に検討し、解決策を提案する基礎的な資質を修得することができる。

授業方法・形式

講義形式に加えて、グループワークやディスカッションを行う。

授業計画

第1回 ガイダンス

共生と社会について考えるとどのようなことが

第2回 共生とは何か

第3回～第6回 日本における多様な共生と社会の課題

ジェンダーをめぐる諸課題（ジェンダーの基礎知識、マスキュリティにみる男性の生きづらさ、セクシュアルマイノリティと社会）

第7回～第10回 日本における多様な共生と社会の課題

子どもをめぐる課題（家庭内暴力、性被害、学校における課題、子どもの貧困）

第11回～第14回 日本における多様な共生と社会の課題

マイノリティをめぐる課題（エスニックマイノリティ・障害者・ひとり親家庭・養子縁組など）

第15回 本講義のまとめ

成績評価の基準

- ・グループワーク、ディスカッション、リアクションペーパー(40%)
- ・定期試験(60%)

準備学習・復習及び授業時間外の課題

各テーマに沿って、授業時間外に情報を集める必要がある。具体的には授業中に指示する。

履修上のアドバイス及び留意点

- ・受講生の自らの経験や価値観といった「常識」をいったん横に置き、柔軟な思考力や多様な価値観を受け入れる心積もりが求められます。
- ・グループワークやディスカッションを通じて、マイノリティに配慮した言動とはいかなるものかを考え、自らの言動を修正したり変容する必要がある場合もあります。

教材・教科書

必要があれば指示する。

参考書

授業時間中に適宜提示する。